

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立今治特別支援学校

学校番号 ( 52 )

評価実施日		令和 5 年 3 月 6 日 ( 水 )	
委員	氏名	所属等	備考
	越智 清仁	学校評議員、(福)来島会理事長	
	浅海 廣司	学校評議員、明德短期大学・愛媛学園講師	
	世良 徹也	学校評議員、今治市桜井公民館長	
	地行千恵美	学校評議員	
	橋田 英俊	学校評議員、正光会今治病院精神科医師、本校学校医	
	山田 洋史	P T A会長	
	渡部 弘美	P T A副会長	
	松下久美子	P T A副会長	
佐伯 栄子	P T A副会長		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 生徒指導について ・特に文化的活動に力を入れて取り組んでいる。ギフトド教育が言われる中、秀でたものを伸ばしていく教育を続けてほしい。 ・部活動を超えて大会に参加させてもらっている。幼少期の体験は成長につながる。積極的にやってほしい。	・本校は12年間の一貫校である。早期に才能を見出し、支援をしていきたい。 ・今後も児童生徒の持てる力を引き出し、いろいろなことに挑戦できる場を作っていきたい。
2 進路指導について ・キャリアガイド教室で中学部が実施した、先輩の働く姿を見学し、話を聞く体験は生徒にとって有益である。引き続き、このような機会を設けてほしい。 ・児童生徒が経験をしたことが、進路につながっていることはうれしいことである。小学部、中学部、高等部と進路に対する保護者の思いの強さは違っている。各部に応じて伝えていく必要がある。	・キャリア教育は、年々、小学部から進んで行っているが、保護者の方に対する情報提供が不十分である。小学部、中学部、高等部、訪問教育、各部に応じた情報提供や研修など、今後、保護者の方へ幅広く進めていく必要がある。
3 保護者・地域連携について ・学校と保護者のコミュニケーションがもう一つではないか。その中でP T A役員の役割があるのではないか。 ・学級通信や連絡帳を見ると、子どもたちはとてもいい体験をさせてもらっていると感じる。日々、子どものことについて担任と話すことが大半であるが、会に参加し、保護者以外の外部の方の目線で学校を見たり、意見を聞くことができて良かった。 ・社会状況が変化していく中で、特別支援学校の地域のセンター的役割は大きくなっている。中心的な役割を担えるよう活動をしてほしい。 ・更に地域の教材を生かした活動ができるとよい。	・保護者同士のコミュニケーションが不足している。P T Aの行事に参加する保護者の方が少ないのも現状であるが、行事を増やすなどして、多くの保護者に参加していただけるよう、コミュニケーションの場を作っていきたい。 ・ホームページに掲載をし、広く保護者に知っていただく。
4 業務改善について ・アンケート結果から、業務改善に不満を抱いている教職員が多いのではないか。 ・教職員の精神的安定が、子どもの適正な支援につながってくる。教職員自身の体調を大切にしてほしい。	・施設・設備の改善については、県にできる限りの要望を出している。代替案を検討したり、限られた中で改善を行ったりする。 ・教職員の健康管理については、声掛けや配慮をすることで風通しの良い環境を整えていく。
5 学校評価全般 ・全体的に評価が控えめではないか。多くのことに取り組んでいるので、もっと評価が高くてよいのではないか。	・次へのステップとして来年度につなげていく。